

令和5年度小学校及び中学校各教科等教育課程研究協議会報告書

【小学校・音楽科】

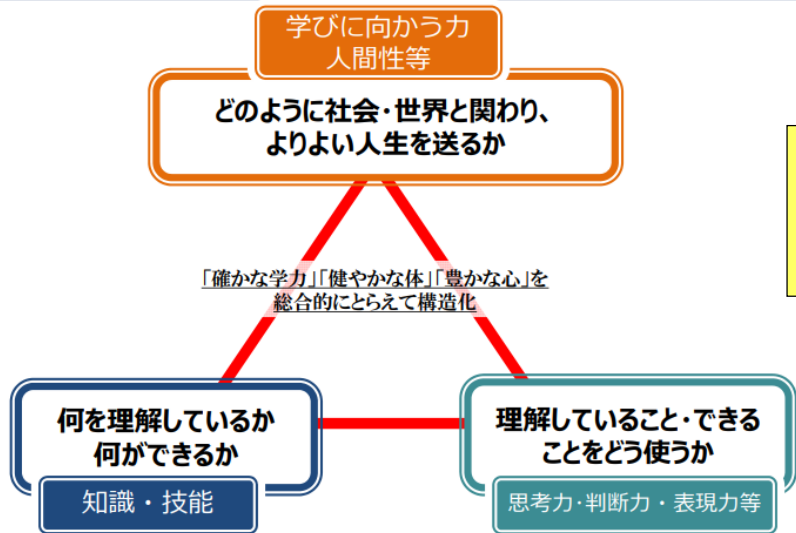
東青教育事務所
指導主事 白取大地

【報告書のポイント】

- ・育成を目指す資質・能力の3つの柱のうち、学びに向かう力、人間性等の涵養は教科の目標の(3)に書かれている。
- ・主体的に学習に取り組む態度の評価では、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面という2つの側面を評価することが求められている。
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善では、主体的に学習に取り組める場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくり出すために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善することが大切。
- ・主体的な学びとキャリア教育を関わらせ、子供たちに社会や職業との関連を意識させる学習を行うことが大切。

1

育成すべき資質・能力の三つの柱



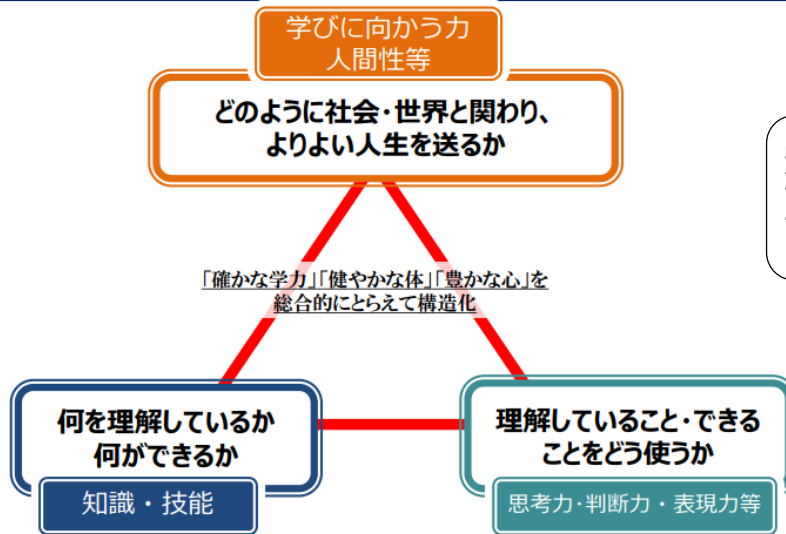
学校教育法第30条第2項が定める
いわゆる学力の3要素を議論の出発点
としながら、学習する子どもの視点に
立ち、育成を目指す資質・能力を三つ
の柱で整理した。

【参考】学校教育法第30条第2項

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

2

育成すべき資質・能力の三つの柱



【参考】学校教育法第30条第2項

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

3

教科の「目標」

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

学びに向かう力、人間性等が、音楽科の「目標」のどこに示されているか見てみましょう。

4

教科の「目標」

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。

(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

(3) に示されています。しかし、内容の事項には示されていません。これが、他の2つの柱と違う部分です。



5

教科の「目標」

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。

(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

(1) ～ (3) の中でも (3) は特に、観点別学習状況の評価の「主体的に学習に取り組む態度」と深く関わっていますね。



音楽活動の楽しさを体験するとは、主体的、創造的に表現や鑑賞の活動に取り組む楽しさを実感することである。
音楽に楽しむ態度とは、(中略) 学校内外の様々な音楽活動に主体的に関わっていく態度も含むものである。

学習指導要領解説音楽編P 14

6

主体的に学習に取り組む態度の評価について

- ① 「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分。
- ② 観点別学習状況の評価や選定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価（個人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する）を通じて見取る部分。

評価では、左記①②のような評価があります。
みなさん①の評価への関心が高いのですが、音楽科では②の個人内評価に目を向けることが重要です。



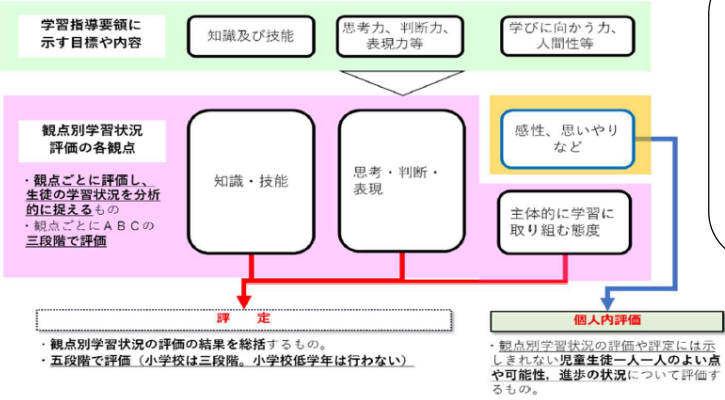
中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」p.9

7

主体的に学習に取り組む態度の評価について

各教科における評価の基本構造

- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況の評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



個人内評価とは、「感性、思いやり」などにあたります。
スライド4の目標（3）の「心情」「感性」「態度」「情操」という言葉で書かれているものは個人内評価に関わる部分ですので重要です。
目標を達成するためには、こういった部分を見取って、子どもたちへフィードバックしていく必要があります。



中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」p.6

8

主体的に学習に取り組む態度の評価について

を変えてみよう。	
イス」の特徴を ために必要な、 けてリコーダー	
復など、音楽の	
を付けて演奏し	
ングをはっきり	
て演奏する。 の演奏を発表す	
について話し合 る。	
	③ 知技聴取・発言・記述
	② 記述・発言・聴取
	① 観察・記述・聴取

評価の方法としては「観察・記述・聴取」の順で書かれていますね。まずは、観察することが重要であることが順序から分かります。

しっかり観察して、教師が目指しているねらいを達成した姿へ向かっていないと判断した場合はすぐに指導の改善につなげていくことが大切です。ワークシートだけで捉えようとする、授業が終わってからの評価になるので即時性に欠けます。

指導に生かす評価は、全員を即時的に評価するということではなく、「Cになりそうだな」という子供をしっかりと観察して対応していくことが先決です。そういった点からも、まずは観察により評価することが最初であるということです。



主体的に学習に取り組む態度の評価について

「努力を要する」状況と判断されそうな子ども			
粘り強く取り組めていない		→	励ましたり、見通しをもてるよう働きかけたりする
→ 自らの学習を調整しようとしているか			
↓	→ めあてから外れている	→	めあての確認を促す 他者の取組に目を向けさせる
↓	→ 既習の内容を生かせていない	→	既習の内容の活用を促す
↓	→ 学び方を工夫していない	→	他者の取組に目を向けさせる
調整しようとしているが上手く いっていない		→	教師の指導改善を検討する

スライド7と照らし合わせて左の表を見てください。まずは、スライド7①の粘り強く取り組んでいるかについて見ていきます。

粘り強く取り組んでいた場合、②の自らの学習を調整しようとしているかを確認していきます。

そして、それぞれどこなと
ころができていないのか見
取り、赤で囲まれた3つの
例のような支援をしていく
ことになります。



主体的に学習に取り組む態度の評価について

「努力を要する」状況と判断されそうな子ども			
粘り強く取り組めていない		→	励ましたり、見通しをもてるよう働きかけたりする
→ 自らの学習を調整しようとしているか			
↓	→ めあてから外れている	→	めあての確認を促す 他者の取組に目を向けさせる
↓	→ 既習の内容を生かせていない	→	既習の内容の活用を促す
↓	→ 学び方を工夫していない	→	他者の取組に目を向けさせる
調整しようとしているが上手くいっていない		→	教師の指導改善を検討する

学習調整に向けたプロセスには児童一人一人の特性があることから、特定の型に沿った学習の進め方を一律に指導することのないよう配慮が必要です。
また、一人一人の子供が、自ら様々な学び方を工夫していく中で、自分に合った学習の調整の仕方を見いだせるよう、教師は粘り強く見守っていくことも大切です。



主体的に学習に取り組む態度の評価について

「努力を要する」状況と判断されそうな子ども			
粘り強く取り組めていない		→	励ましたり、見通しをもてるよう働きかけたりする
→ 自らの学習を調整しようとしているか			
↓	→ めあてから外れている	→	めあての確認を促す 他者の取組に目を向けさせる
↓	→ 既習の内容を生かせていない	→	既習の内容の活用を促す
↓	→ 学び方を工夫していない	→	他者の取組に目を向けさせる
→	調整しようとしているが上手く いっていない	→	教師の指導改善を検討する

そういった支援を行った上で、もうまうまいかな場合は、指導改善が必要と考えられます。



主体的に学習に取り組む態度の評価について

「努力を要する」状況と判断されそうな子ども			
粘り強く取り組めていない		→	励ましたり、見通しをもてるよう働きかけたりする
→ 自らの学習を調整しようとしているか			
↓	→ めあてから外れている	→	めあての確認を促す 他者の取組に目を向けさせる
↓	→ 既習の内容を生かせていない	→	既習の内容の活用を促す
↓	→ 学び方を工夫していない	→	他者の取組に目を向けさせる
→	調整しようとしているが上手く いっていない	→	教師の指導改善を検討する

例えば、教材が技能的に難しすぎて工夫までに至らない場合や、学習内容にふさわしい教材選択がされていない場合、もしくは、子どもたちにとって必要感のある学習内容になっていない場合などが考えられます。こういった場合は、指導改善もする必要があります。



主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

例えば、主体的に学習に取り組めるよう**学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか**、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めることが求められる。

小学校学習指導要領解説音楽編より

毎時間、見通しや振り返りの時間を設定すればよいわけではありません。振り返ることによって、本当に次の学習に向かえるものになっているのかと考えなければならないのです。これが「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」につながります。



主体的な学びとキャリア教育

【主体的な学び】

学ぶことに興味関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

【キャリア教育】

学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育み、キャリア教育を促す。



これらに関わらせ、子供たちに社会や職業との関連を意識させる学習を行うことが大切です。（平成28年 中教審答申より）

そして、

「なりたい自分になるために音楽をどう生かすか」

「音楽の授業で学んだことをどう生かすことができるか」

と、一人一人のキャリア形成の方向性に対応していき、それに合わせた学習の広がりを考えていくことが必要です。



17

主体的な学びとキャリア形成

音楽をよりよく表現できたり、よりよく聴くことができたりすると、このようないいことがあると思わせることが第一歩です。

例えば、

「みんなで声を合わせて思いをもって歌うと、素敵な合唱ができてうきうきする。」

などです。

そこから、

「次はこういう学習にチャレンジしてみたい。」

「学んだことを生かして音楽の活動をしたい。」

とつなげていってください。



18